

13:00-13:10 **開会の挨拶**

西村 理行 大阪大学大学院歯学研究科長・大阪大学歯学会会長

13:10-13:30 **「むし歯予防のサイエンス最新情報」**

久保庭 雅恵 大阪大学大学院歯学研究科 予防歯科学講座 教授

13:30-13:50 **「歯の神経(歯髄)を守り、歯を守ろう」**

高橋 雄介 大阪大学大学院歯学研究科 歯科保存学講座 講師

13:50-14:10 **「『二刀流』で解明する口と肺炎の関係」**

山口 雅也 大阪大学大学院歯学研究科 バイオインフォマティクス研究ユニット 准教授

14:10-14:25 **休憩** (15分)

14:25-14:45 **「『美味しい・まずい』は体からのシグナル」**

乾 千珠子 大阪大学大学院歯学研究科 組織・発生生物学講座 助教

14:45-15:05 **「一般診療所でのリアル**

～歯周治療とインプラント治療の最前線から～」

米田 晋也 大阪大学歯学部同窓会 りょうき歯科クリニック 院長

15:05-15:20 **休憩** (15分)

15:20-15:50 **総合討論** (30分)

15:50-16:00 **閉会の挨拶**

山城 隆 大阪大学歯学部附属病院長

[司会] 豊澤 悟 大阪大学大学院歯学研究科 副研究科長



大阪大学大学院歯学研究科
大阪大学歯学部附属病院

第21回 市民フォーラム

最新事情

のサイエンスの



2024

11.2 | 土 |

13:00-16:00

千里ライフサイエンスセンター
5F サイエンスホール

口の科学を知り、 豊かなくらし創り

西村 理行

大阪大学大学院
歯学研究科長・歯学部部長・大阪大学歯学会長



第21回 市民フォーラムにお越し頂き、ありがとうございます。21世紀に入り、医学・歯学・生命科学は、飛躍的進歩を遂げています。口の科学の進歩に伴って、20世紀には不可能であると思われていた、歯科医療が可能になっています。また口と全身の関連についての研究が進み、歯・口の健康が全身の健康増進や重篤な感染症の予防にも重要であることが、日進月歩で明らかになりつつあります。

今回の市民フォーラムでは、歯・口の最新のサイエンス（科学）を紹介し、歯科医療あるいは一般医療にどのように貢献しているかを知って頂くことを目指して、企画致しました。また、生活における歯・口の大きな役割の一つに、美味しく食べるということが挙げられます。歯や口で食べて栄養を得るだけでなく、食事をどのように味わい、美味しく食べるかは、人の生活・暮らしを充実させることに非常に重要です。今回のシンポジウムでは、この点についても科学して、美味しく「味わう」を追求する喜びにも触れて頂ければと思っています。

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部附属病院は、「健康寿命」に加えて、こころの豊かさを踏まえた、「幸福寿命」の延伸を目標として、より良く「食べる」、「味わう」、「話す」、「暮らす」、「生きる」をモットーとしています。歯と口の最新のサイエンスを知って頂き、近未来の歯科医療がどのように実現されるかをお聴きいただければ嬉しく存じます。20年前は、不可能と思われていた歯科医療が、現実提供されつつあることをぜひ実感してください。

口の最新事情を ご紹介いたします

山城 隆

大阪大学歯学部附属病院
病院長



皆様、本日はお忙しい中、市民フォーラムにご参加いただき、誠にありがとうございます。大阪大学歯学部附属病院は、地域の皆様の口腔の健康を守るために、日々最先端の医療を提供しています。これまでも、様々な口腔の健康に関する情報を発信してまいりましたが、皆様にご好評いただき、大変嬉しく思います。

近年、医療は目覚ましい発展を遂げており、歯科医療も例外ではありません。新しい治療法や技術が次々と誕生し、私たちはより健康な口を手に入れることができるようになりました。しかし、これらの進歩は、必ずしもすべての方に理解されているとは限りません。

生涯を通して、健康を維持し、美味しく食事を楽しむことは、誰もが願うことです。本日は、その願いを叶えるために、最新の歯科医療の知見を分かりやすくご紹介いたします。寿命が延びる中、歯科医療は、単に歯の病気を治すだけでなく、全身の健康増進にも貢献することが求められています。そして、科学の進歩により、その実現はますます現実のものとなりつつあります。

本日は、虫歯予防の最新情報、歯の神経を守る治療、口と全身の健康の関係、味覚と体との繋がり、そして、歯周病やインプラント治療の最前線など、盛りだくさんの内容をお届けします。若手研究者たちが、最新の研究成果を分かりやすく解説いたします。

皆様と一緒に、未来の歯科医療について考え、より良い口腔の健康を目指していきたいと思えます。最後までお楽しみいただければ幸いです。



むし歯予防のサイエンス最新情報

久保庭 雅恵

大阪大学大学院歯学研究科 予防歯科学講座 教授



むし歯は、菌が産生する酸によって歯が溶かされ、ひきおこされる病気です。そのリスクを左右する主な要因は、①歯の表面に付着している酸産生菌の種類と量、②酸を中和する唾液の力と量、③菌が酸をつくるのに必要な糖質（砂糖、ブドウ糖、果糖など）がお口に入る頻度、④酸にさらされた時の歯の溶けやすさ（歯の強さ）、⑤歯磨きができる環境や身体能力、などがあげられますが、これまで知られていなかった新たなリスク要因もあきらかになってきました。今回のお話が、ご自分にあったむし歯予防法を見つけるためのヒントになれば幸いです。

歯の神経(歯髄)を守り、歯を守ろう

高橋 雄介

大阪大学歯学部附属病院 保存科 講師



皆さんは歯の神経(歯髄)と聞いて何を連想されますか?歯髄とは、歯の一番内側に存在する組織で、冷たいもしくは熱い飲食物や歯ブラシの刺激などに対してピリっとしみる感覚をつかさどっています。歯の痛みがひどく、歯髄を取るような治療を受けたことがある方も多いと思いますが、歯髄を失った歯は様々な問題を起こす可能性があります。今回は歯髄の大切さについてお話するとともに、歯髄を守るためにわれわれが現在おこなっている研究についてご紹介します。

「二刀流」で解明する口と肺炎の関係

山口 雅也

大阪大学大学院歯学研究科 バイオインフォマティクス研究ユニット 准教授



近年、解析技術が急速に発展しており、わずかな検体からでも膨大なデータを得ることが可能となってきました。この進展に伴い、生命科学分野でも従来の生物学的実験に加え、コンピュータを活用した情報解析が必要不可欠となっています。私の講演では、実験とコンピュータの解析による「二刀流」を駆使して、肺炎の重症化機構を解明するアプローチについてお話しします。最新の研究の現状をご紹介しますので、ぜひご参加ください。

美味しいを科学する

—「美味しい・まずい」は体からのシグナル—

乾 千珠子

大阪大学大学院歯学研究科 組織・発生生物学講座 助教



食べ物の情報は視覚、聴覚、嗅覚、触圧覚、温冷覚、味覚によって処理されます。特に味覚は“美味しさ”を構成する重要な役割を持ちます。甘味やうま味は栄養素としての情報を持ち、“美味しい”と感じます。一方で、酸味や苦味のように“まずい”と感じる場合は体にとって危険であることを意味します。このような味覚の情報を処理する仕組みが口腔だけではなく、腸や気道など全身に存在することが最近わかってきました。今回は、口腔の感覚が健康にとって大事なシグナルであることを最新の情報を紹介しながらお話ししたいと思います。

一般診療所でのリアル

～歯周治療とインプラント治療の最前線から～

米田 晋也

大阪大学歯学部同窓会 りょうき歯科クリニック 院長



大学を離れて、東大阪の地で臨床に従事して15年が経ちました。現在では主に重度にお口の環境が悪化し、咬む事が困難になった症例に対する噛み合わせの再構築といった治療を行っています。

そういった症例を治療するにあたって痛感するのは患者さんの理解と協力なくして治療の成功はないということです。

今回は健やかなお口の状態を取り戻す、あるいは維持するために患者さんに何を理解していただき、どのような協力が必要なのかを歯周病とインプラントに的を絞って新旧の知見を交えてお話ししたいと思います。

司会

豊澤 悟

大阪大学大学院歯学研究科 副研究科長・歯学部副学部長



今回、司会を担当させていただきます豊澤と申します。年に一度、大阪大学歯学部が秋にお届けする市民フォーラムも、今年で21回目を迎えることになります。今回は、「口のサイエンスの最新事情」をテーマに、歯学研究や治療現場の最前線でご活躍中の5人の先生方にお話をさせていただきます。口(くち)の最先端サイエンスを身近に感じいただける良い機会になるかと思います。最後までゆっくりとお楽しみいただければ幸いです。